

六 兵庫津

主な見どころ

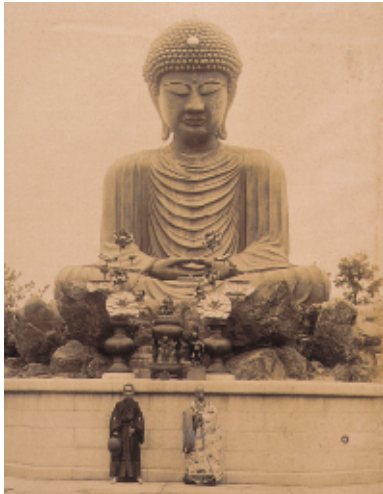
奈良時代から瀬戸内海有数の港として栄え、交通の要所であった兵庫区の沿岸地域には、源平の戦いから近代の海運を支える礎まで、さまざまな史跡が点在しています。

平安時代には「大輪田泊」と呼ばれ、中国をはじめ諸外国との貿易拠点として栄えました。平清盛の時代には半年の間、福原京が設けられました。鎌倉・室町時代にかけて、このあたりが「兵庫津」と呼ばれるようになったといわれています。

また、江戸時代中期には宿場町も整備され、兵庫も西宮と大蔵谷(明石市)との間の宿場町としてにぎわいました。

そして、明治維新とともに兵庫港が開港され、今日の神戸港発展の基礎となっています。

このように、昔から海陸交通の要所であった兵庫津は、太平洋戦争をはじめ幾度も戦火にあい、多くのものが失われましたが、まだまだ街角には歴史をしのぶことのできる史跡や文化財が残されています。



明治24年に造られた初代兵庫大仏(能福寺内)
 本体約8.5m、台座約3m、重さは約11トンあり、現在のものより一回り小さい。戦時中、金属回収令により供出された。(神戸市立博物館蔵)



兵庫津略図(「神戸市史」歴史編III近世より)

湊口惣門跡の碑
 兵庫津東の出入口で、番所が置かれ礼場(ふだば)があった。湊口の東は旧湊川で慶応元年(1860)まで橋はなく、雨で水量が増えると通行止になり、参勤交代の一行や旅人が町にあふれたといふ。

湊八幡神社
 神社内に迷子のしるべ石がある。この付近は人の往来が多く、迷子の特徴(氏名等を紙に書いてこの石に張りつけ、迷子を探した。保護した場合もここで保護者に引き渡したという。戦災で折れたこの石は鉄枠で補強され、横に新しい碑が建てられている。1月18、19日に河除大祭。9月14日に例祭がある。

鎮守稲荷神社
 「ちぢみ稲荷」とも呼ばれている。平教盛の兄・平経俊を供奉する五輪塔があり、この塔に祈ると子供の坎の虫が治まるといわれている。鳥居脇には、文政7(1824)年に高田屋嘉兵衛が奉納した一对の石灯籠がある。2月に初午大祭。7月23日に夏祭がある。

岡方惣会所跡の碑
 本町公園西の岡方会館は、岡方惣会所の跡であり、入口横に碑が残っている。名主が出勤して総代や年寄などを指揮し、行政を行っていた。

築島寺来迎寺
 境内には、松王小児入海の碑と墓が残されている。承安年間(1171-75)に、平清盛が大輪田泊の修築工事にあたり、東南の風を防ぐために、埋め立てて築かせた。経ヶ島きょうがしまの上にてきたたが島上町たといわれている。難工事だったので17歳の松王丸が人柱となり、経文(ききょうもん)を記した石を沈めて基礎としたといふ。

金光寺
 「兵庫の薬師さん」の通称で知られる。平清盛が夢枕に立った童子のお告げに従って、大輪田の海に綱をおろさせたところ、海中より黄金の薬師如来が現れたといふ。それを本尊として創建されたといえらる。

柳原蛭子神社(柳原えびす)
 毎年1月9-11日の、十日えびすは大変賑わい、向かいに建つ福海寺の開運大黒尊天と合わせてお参りする人が多い。また、北西角に兵庫津の西側玄関であった、柳原(西)惣門跡の碑がある。明治維新まで高札(こうさ)に掲げる札場(ふだば)があった。

満福寺
 阿弥陀如来を本尊とし、延慶元年(1308)に一過上人の高弟、他真(たまた)上人真教が開いた。創建当時は真光寺の隠居寺であったといわれている。

真光寺
 境内には一過上人の廟所(びょうじょ)があり、一段高く壇を築き五輪塔が建てられていた。一過上人は鎌倉時代の時宗の開祖。正応2年(1289)に51歳でこの地の観音堂で没した。また、西国街道の道標が移設されている。

